

あなたは決別できますか? --- 安全を見捨ててきた国というレッテル。

国際予防医学リスクマネジメント連盟(URMPM) 理事長  
日本予防医学リスクマネジメント学会(JSRMPM) 名誉理事長  
酒井 亮二

ご周知のように、日本での3月11日の三陸沖の巨大地震に由来する複合災害のニュースは、全世界に瞬く間に配信されました。過去の日本が行ってきた災害などの海外支援の成果もあって、全世界に多数の救援支援が起きました。事の初めには、URMPMの世界各国の会員からも多数のお悔やみの言葉が届きました。

しかし、1か月以上を経て、世界の会員からは、以下のように発言も届いています。

- 1) 高度な科学技術立国である日本で、津波による多数の死者を出した。日本は昔からこのような津波災害を繰り返しており、改善の強い意志が乏しい、みじめな国である。
- 2) 危険な原発に関するリスク管理と危機管理が全くなっていない。高度科学技術立国であるはずの日本が、後進国での原発事故並みの放射能汚染を世界にまき散らかす。安全に対しては最低かつ悪質な科学技術政策を持つ、迷惑な国である。

つまり、「日本はその安全意識が開発途上国並みの低水準にあり、高度科学技術立国として極めて悪質である。人類世界に不幸をまき散らす劣悪な国」、ということです。

今、世界からは内心で、日本の安全文化が先進国水準に達していない野蛮国、とみなされています。

この事実を日本は真摯に受け止め、訣別の強い決意を宣言しなければ、日本での安全のマネジメントは三流クラスという国辱レッテルがついて回り、日本民族は海外で軽蔑の対象であり続ける。

今、日本人はこのような国家の危機にも直面しているのです。